

# 南紀白浜空港で実証実験

## ローカル5G、MR活用

オリコンサルら

南紀白浜エアポート（和歌山県白浜町、岡田信一郎社長）と日本電気（NEC）、THK、オリエンタルコンサルタツは、南紀白浜空港で地方空港が抱える人的資源などの課題解決を目指す新たなサービス開発のための実証実験を14日から始めた。ローカル5G（第5世代移動通信システム）のネットワーク環境とMR（複合現実）技術、複数ロボット協調制御技術を活用し、日本マイクロソフトと凸版印刷が協力する。



HoloLens 2を活用したスマートメンテナンス

とエプロン、滑走路周りの場周道路を対象に、高速大容量・低遅延なローカル5Gネットワーク環境を構築。Microsoft HoloLens 2を利用した空港職員向けのスマートメンテナンスサービスや、複数ロボットを空港内エリアで協調制御させて来訪者を目的地まで案内するサービス、MR空間でペイントしたオリジナル飛行機の着陸見学体験サービスの実証実験を行う。

このうち、スマートメンテナンスでは、HoloLens 2とNECの特許技術である点群データ活用侵入検知技術と、ローカル5Gの大容量通信を組み合わせ、樹木など制限表面を超える物体を分析・検知して点検者のHoloLens 2に表示し、点検時の見落としを防ぐ。また、路面劣化などの点検時はHoloLens 2上で現実空間に前回の記録を重ね合わせて表示することで、目視と比べ、作業時間の短縮と確認の効率化を実現する。

さらに、THKのサイネージロボットとNECの複数ロボット協調制御技術を活用。空港内のエリアを2台のロボットが協調連携、分担して来訪者を目的地まで案内する。案内終了後は移動型デジタルサイネージによる宣伝広告に切り替わる。ネットワーク越しでの統合管理・制御でロボットによる業務遂行の生産性・安全性・品質の向上に貢献。遠隔地からオペレーターのロボット操作による案内も可能となることで案内スタッフのテレワークを実現する。

このほか、バックヤードツアアのコンテンツ拡充を見据え、ローカル5GとMR技術を活用した新たな観光体験を提供する新サービスを実証する。実証期間は2023年3月末まで。6社は、将来的にMRデバイスでの現実空間とデジタル空間の位置調整方法の高度化や、複数ロボットの協調制御機能を空港・他業種のソリューションに応用するなど、今後もローカル5Gを活用して南紀白浜空港の魅力を向上させ、生産性が高く働きがいのある業務環境の創出、来訪者増加などの課題解決を目指していく。